

大腸内視鏡検査同意書 上記検査に伴う鎮静同意書

1. 【文書 No.0005】 大腸内視鏡検査説明・同意書 説明済み
2. 【文書 No.0003】 鎮静の説明・同意書 説明済み 非該当

検査目的 : スクリーニング
便潜血陽性・下血
大腸ポリープ・大腸腫瘍疑い
経過観察 (ポリープ切除後・術後)
その他 ()

検査予定日 : 西暦 年 月 日

上記について説明をしました。

説明日時 西暦 年 月 日 時 分

説明者 医師名

私は説明を受け、下記の説明同意書について

- | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|------------------------------|
| 1. 【文書 No.0005】 大腸内視鏡検査説明・同意書 | <input type="checkbox"/> 同意する | <input type="checkbox"/> 同意しない | |
| 2. 【文書 No.0003】 鎮静の説明・同意書 | <input type="checkbox"/> 同意する | <input type="checkbox"/> 同意しない | <input type="checkbox"/> 非該当 |

西暦 年 月 日 時 分

署名

本人以外の場合は患者さんとの関係 ()

患者本人が署名できない理由 (代理署名の理由)

15歳未満 重篤・意識障害 ペンが持てない その他 ()



大腸内視鏡検査説明書

【大腸内視鏡とは】

肛門から内視鏡を挿入し、大腸を詳しく観察して病気の有無を確認する検査です。精密診断のために、腸内に薬液を散布したり、粘膜を一部とって調べる(生検)場合があります。内視鏡的に切除可能な病変(ポリープなど)が発見された場合は、直ちに切除することもできます。腸炎、潰瘍、ポリープ、がんなどの正しい診断には、なくてはならない大切な検査です。

【患者さまに事前に確認して頂くこと】

- 検査を安全に行うために、全身状態の把握や感染症の有無について、採血検査・尿検査・心電図検査などを行う場合があります。
- 出血がとまりにくい病気や、治療のため血液を固まりにくくする薬(ワファリン・パナルジン・プラビックス・バイアスピリン・バファリンなど)を服用中の方は、「生検」「ポリープ切除」により多量の出血がみられる可能性があります。紹介いただいた主治医の先生・当院担当医師・看護師とよくご相談していただき、普段服用中の薬の中断が必要なこともありますので、あらかじめ申し出てください。
- 必要に応じて検査直前に、腸の運動を抑える薬・鎮痛剤(痛み止め)・鎮静剤(眠り薬)の静脈注射を行いません。検査中は、お酒に酔ったような感じになりますが、完全に意識がなくなるようなことはありません。こうした薬は、患者様の病気や状態によっては、種類を変更するか使用できないことがありますので、あらかじめ詳しく問診します。経過観察などで、繰り返し内視鏡検査を受けていただく場合も、内服薬や治療中の病気などの変更がないか確認させていただきますので、ご協力をお願いいたします。
- 大腸の中に便が残っている場合は十分な検査ができません。前日(場合によっては数日前)からの食事制限と下剤の服用が必要となります。検査当日浣腸をさせて頂くこともあります。

【検査前の準備】

- ◆ 検査前日は、繊維の少ない消化の良い食事を心がけ、食事の量を減らさないで夕食まで食べていただけます。前日の夕食は19時頃までにお召し上がりください。以後、検査終了まで食事はできません。
- ◆ 検査前日の水分制限はありません。
検査当日は、朝起きたら水やスポーツ飲料・お茶・紅茶など透明な飲み物を300mLほどお飲みください。
検査前夜20時~21時頃に下剤を飲みます。便通の状況によって下剤の種類・内容は異なります。医師・看護師の指導に沿って下剤を内服してください。
- ◆ 検査当日の朝の薬は指示のとおり内服してください。
高血圧治療薬・パーキンソン病治療薬・抗けいれん剤・心臓病治療薬(血液を固まりにくくする抗凝固剤以外)などは、食事をしなくても必ず内服してください。
- ◆ 糖尿病のかたは、当日の朝のインシュリン・血糖降下剤を中止してください。
また、中止の指示をされた胃薬・抗凝固剤などは飲まずに来てください。
- ◆ 鎮静剤を使用するため、検査当日の車・バイク・自転車の運転はできません。公共機関を御利用ください。病院で検査後1~2時間ベッドで休んでから帰宅していただきますので、時間に余裕を持ってお出掛けください。
- ◆ 検査前に、大腸の中の便を全て排出するため、腸管洗浄を行います。検査用の洗浄液(モビプレップ)を内服してトイレに通っていただきます。薬を飲んでいない間の症状の観察が必要になりますので、検査当日は9時30分に来院していただき、病院で洗浄液を飲んでいただきます。

- ◆ 腸内洗浄ができた方から、検査させていただきます。予約時間および来院時間は反映されませんので、ご了承ください。検査開始時間は月曜日～金曜日 13:00 となっています。これらの内容は画像インフォメーションにて詳しく説明させていただきます。お手数ですが、必ず説明をお受けください。(入院中の方は、状況により病棟に訪問させていただきます。)
- ◆ 入院中に大腸内視鏡検査を受けられる方は「入院下部消化管内視鏡検査前後ケアパス」に沿って準備・観察していきます。

【検査の方法】

1. 腸内洗浄が終了したら、検査着に着替えます。電気メスを使用する可能性がありますので、下着の止め具・指輪・ネックレス・時計などの金属類は全てはずしていただきます。
2. 検査室へ移動し、入れ歯・眼鏡をはずして検査台の上に上を向いて寝ます。
3. 鎮痛剤および鎮静剤を静脈注射します。(運転が必要な場合は投与しないこともあります。)
4. 検査台の上で、左側を下にして横向きに寝ます
5. 麻酔のゼリー(キシロカインゼリー)を肛門に塗って、肛門の診察をします。
6. 内視鏡が肛門より挿入され、検査が始まります。
7. 大腸をじゃばらのようにたたみながら内視鏡を進めていきます。途中曲がりの強い場所が数箇所あり、多少痛みを伴う場合がありますが、通過してしまえば痛みは消失します。検査中は力を抜いて楽にしてください。
8. 大腸の1番奥の盲腸まで挿入した後、空気を入れ大腸を膨らませ内視鏡を抜きながら観察していきます。その際、内視鏡的に切除可能な病変(ポリープなど)が発見された場合は、速やかに処置します。状況にもよりますが、20～30分程度で検査は終了します。

【検査後の注意】

- ◆ 腸の運動を抑える注射で、動悸や目がぼんやりする感じなどがみられることがあります。
- ◆ 検査後、腹部の張り感が残ることがあります。検査の際に腸内に空気を入れたためですが、散歩や食事開始に伴い腸が動き始めると、張り感が強くなる場合があります。ガスが出る(おならをする)と楽になりますので、よく出すように心がけましょう。ご自分で対処が困難な場合は、病院に連絡してください。電話で相談することができます。
- ◆ 精密診断のため腸内に薬液(色素液)などを散布した場合、一時的に尿や便の色が変わることがあります。
- ◆ 鎮静剤を使用するため、検査当日は車・バイクなどの運転はできません。病院で検査後1時間ベッドで休んでから帰宅していただきます。
- ◆ 飲水、食事は指示を聞いて開始してください。生検やポリープ切除をされた方は、刺激のある食事、飲酒、炭酸・コーヒーなどを数日間避けていただきます。処置の程度によって食事制限の期間は異なります。検査後にスタッフより説明があります。
- ◆ 生検された方は、1週間は激しい運動はおやめください。長い時間の入浴など、血流を激しくすることは避けて、ゆったりと過ごされると良いでしょう。
- ◆ 最終検査結果は後日となりますので、次回外来診察日をご確認ください。
- ◆ もし、吐き気や腹痛、出血が生じた場合には至急連絡してください。

連絡先:平日 8:30～17:00 053-474-5545 内視鏡室
上記以外 053-474-2222(代) 救急外来

【検査の偶発症・合併症】

万が一、出血、穿孔などの合併症が生じた場合、速やかに対処いたします。入院や緊急の処置・手術および出血には輸血が必要になることがあります。なお、出血、穿孔などの発生頻度は出血で0.9%、穿孔で0.05%程度です。



大腸内視鏡検査同意書

【説明内容】 (手術、検査、治療、処置、投薬、メーカー立会い、その他)

予定日: 別紙[文書 No.0005A]にて記載

名称: 大腸内視鏡検査

【病名】 別紙[文書 No.0005A]にて記載

【症状】 別紙[文書 No.0005A]にて記載

上記のように説明をしました。

別紙にて説明をしました。(別紙 No. 0005)

説明日 別紙[文書 No.0005A]にて記載

診療科 別紙[文書 No.0005A]にて記載 医師 別紙[文書 No.0005A]にて記載

説明について同意します。

同意日 別紙[文書 No.0005A]にて記載

署名 別紙[文書 No.0005A]にて記載

本人以外の場合は患者さんとの関係(別紙[文書 No.0005A]にて記載)

患者本人が署名できない理由(代理署名の理由)

@@*DAIDAKU_AGE*@@ 重篤・意識障害 ペンが持てない その他(別紙[文書 No.0005A]にて記載)

立会い者 別紙[文書 No.0005A]にて記載



鎮静の説明

医療を受ける時、とりわけ治療や身体への負担のある検査（内視鏡、心臓や脳血管等へのカテーテル検査等）を受ける場合には不安や苦痛を伴う場合があります。

当院ではこのような場合に、患者さんの不安や苦痛を軽くするために必要に応じて薬を使って「鎮静」を行っています。

「鎮静」の長所：

治療中の患者さんの不安と苦痛の軽減になるとともに、検査の場合はその検査結果の正確さ向上に役立ちます。

「鎮静」の短所（副作用）：

鎮静というのは中枢神経の正常な作用をおさえることとなり、呼吸循環の抑制作用が強く出現することがあります。具体的にはいびきをかいたり、血圧が低下したりすることがあります。まれに呼吸が停止することがあります。その他、薬剤の使用説明書に記されている様々な副作用が時に出現することがあります。

副作用を早期に発見し安全性を向上するために、当院では鎮静をする場合は専用の設備（酸素・吸引器・監視装置）のある場所において行い、鎮静について教育を受けたスタッフが対応しております。

通常当院では苦痛が中等度以上の場合は鎮静を勧めていますが、鎮静を受けないという選択もあります。それによって鎮静の短所（副作用）からの回避はできます。鎮静を受けずに検査を行う場合には検査中の不快感の強さから検査の続行が困難になる場合が数パーセント存在します。

◆ **鎮静剤を使用される場合は、検査当日の車・バイク・自転車の運転は出来ません。**

公共機関をご利用下さい。病院で検査後 1～2 時間ベッドで休んでから帰宅していただきますので、時間に余裕を持ってお出掛けください。

また、可能な限り付添いの方と一緒に来院される事を強くお勧めします。

鎮静同意書

あなたがお受けになる鎮静の内容は下記になります。

検査・治療のための経口薬または坐薬による鎮静

主として小児での非侵襲的な検査（エコー・睡眠脳波・CT等）が対象となります。

基本的に外来では一回の同意で、継続して通院する限り有効とします。

入院では一回の入院毎に同意を確認し署名をいただきます。

検査・治療のための薬剤筋注または静注による鎮静

主として痛みを伴うと考えられる侵襲的な検査や治療が対象となります。

また小児でのMRI検査では動くとき正確な画像が撮れないため、静注で鎮静を行います。

外来では鎮静を行う検査毎に、入院では一回の入院毎に同意を確認し署名をいただきます。

上記の医療を行うにあたり「鎮静の説明」をもとに、鎮静の必要性和危険性について説明を致しました。

説明日 別紙[文書 No.0005A]にて記載

診療科 別紙[文書 No.0005A]にて記載

署名 別紙[文書 No.0005A]にて記載

聖隷浜松病院 病院長

上記の医療を受けるにあたり鎮静の必要性和危険性、及び、鎮静を受ける際の注意事項についての説明を受け、内容について十分に理解した上で鎮静を受けることに同意します。

同意日 別紙[文書 No.0005A]にて記載

署名 別紙[文書 No.0005A]にて記載

本人以外の場合は患者さんとの関係（別紙[文書 No.0005A]にて記載）

患者本人が署名できない理由（代理署名の理由）

DAIDAKU_AGE 重篤・意識障害 ペンが持てない その他（別紙[文書 No.0005A]にて記載）